

病害虫発生予報

第2号(5月予報)

令和7年4月25日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
水稻	ヒメトビウンカ	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	多
	縞葉枯病	早植地帯	平年並	やや少
麦	赤かび病	栽培地域全域	—	やや多
かき	ハマキムシ類	栽培地域全域	平年並	平年並
なし	黒星病	栽培地域全域	平年並	平年並
もも	せん孔細菌病	飛騨地域	やや遅	少
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	やや遅	やや少
アブラナ科野菜	コナガ	栽培地域全域	—	やや多
野菜一般	アブラムシ類	栽培地域全域	—	平年並

(発生時期の—は連続発生)

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）

<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稻

ヒメトビウンカ	対象地域	発生最盛期<第一世代成虫>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並（5月第6半旬頃）	多

(1) 予報の根拠

- ア 小麦の出穂期は、やや遅かった（+）。
- イ 前年の発生面積は、やや多かった（+）。
- ウ 小麦での発生量は、すくい取り（20回振）で、成虫は多かった（+）。
- エ 向こう1ヶ月（4/26～5/25）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は平年並からやや少ない（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 本虫に効果がある箱施薬を実施する。
- イ 箱施薬を実施していない場合は発生状況に注意し、5月第4半旬～6月第2半旬頃に、飛び込み成虫及び第2世代幼虫を対象として本田での薬剤防除を実施する。

縞葉枯病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	早植地帯	平年並（5月第6半旬頃）	やや少

(1) 予報の根拠

- ア ヒメトビウンカの発生量は、多い（+）と予想される。
- イ 早植水稻における前年の発生面積は、平年並みであった（±）。
- ウ 前年のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、平均2.1%と平年と比べて高かった（+）。
- エ 縞葉枯病抵抗性を有するハツシモ岐阜SLへ切替えが行われた（-）。

オ 向こう1ヶ月(4/26~5/25)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並からやや少ない(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 感受性品種に対しては、適切な対策を行う必要がある。
- イ 多発地帯では、縞葉枯病抵抗性品種の作付や、ウンカ類に効果が高い薬剤を選択する。
※病害虫図鑑 「水稲 ヒメトビウンカと縞葉枯病について」も参考にしてください。

2 麦

赤かび病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 前年の発生面積は、岐阜・西濃、中濃および東濃地域で多かった(+)
- イ 向こう1ヶ月(4/26~5/25)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並からやや少ない(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 開花始期(出穂期から7~10日後)とその10日後の2回、必ず防除を実施する。防除にあたっては、開花期などは場ごとに生育状況を把握し適期の防除に努める。
- イ 開花から10日間は特に感染しやすく、開花期~乳熟期に多雨、曇天が続くと多発しやすいため注意する。
※病害虫情報「麦類赤かび病の防除時期について(令和7年4月15日発表)」もあわせて参考にしてください。

II 果樹等作物

1 かき

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期<越冬世代成虫>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並(5月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、認められていない。
- イ フェロモントラップへの初飛来は、岐阜・西濃地域のチャノココクモンハマキでやや遅く(-)、中濃地域のチャハマキで早かった(+)
- ウ チャハマキの前年最終世代成虫の予察灯誘殺数は、両地域で多く(+)、中濃地域のフェロモントラップ誘殺数は少なかった(-)
- エ チャノココクモンハマキの前年最終世代成虫の予察灯誘殺数は、岐阜地域で少なく(-)、中濃地域で多く(+)、岐阜地域のフェロモントラップ誘殺数はやや少なかった(-)
- オ 向こう1ヶ月(4/26~5/25)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並からやや少ない(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 越冬世代成虫の発生最盛期の15~20日後を目安に防除を実施する(ミツバチに注意)。
- イ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※病害虫図鑑「かき ハマキムシ類」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	平年並(4月第6半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 開花期は、岐阜・西濃地域でやや遅く(-)、中濃地域で平年並であった(±)。
- イ 前年の秋期発生量は、岐阜・西濃地域で少なく(-)、中濃地域でやや多かった(+)
- ウ 向こう1ヶ月(4/26~5/25)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並からやや少ない(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 開花期から2~3週の間降雨が多い年は、初期の発病が多くなることが予測される。
- イ 発病部位は、伝染源となるため早めに切り取り処分する。
- ウ 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※病害虫図鑑「なし 黒星病」もあわせて参考にしてください。

3 もも

せん孔細菌病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	飛騨地域	やや遅（5月第5半旬頃）	少

(1) 予報の根拠

ア 前年の発生面積は、少なかった（－）。

イ 向こう1ヶ月（4/26～5/25）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並からやや少ない（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発病枝（春型枝病斑）や周辺の新梢葉などの発病部位は、伝染源となるため早めに除去し処分する。

イ 本病は、葉や果実の気孔等の自然開口部のほか害虫による加害部の傷口から侵入するため、防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除を併せて行う。

※病害虫図鑑「もも せん孔細菌病について」もあわせて参考にしてください。

4 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期<越冬世代成虫>	発生量
	岐阜・西濃地域	やや遅（5月第1半旬頃）	やや少

(1) 予報の根拠

ア 予察灯への初飛来は、チャハマキで遅く、チャノコカクモンハマキでは認められていない（－）。フェロモントラップでは、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに遅かった（－）。

イ 前年のフェロモントラップへの最終世代成虫の誘殺数は、チャハマキは少なく（－）、チャノコカクモンハマキは平年並だった（±）。

ウ 向こう1ヶ月（4/26～5/25）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並からやや少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫が葉をつづり合わせると効果が低くなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施する。

イ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

ウ 交信攪乱剤を使用する場合は、越冬世代成虫の発生前から設置する。

※病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

III 野菜

1 アブラナ科野菜

コナガ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

ア 岐阜・西濃地域のフェロモントラップでの誘殺数は、やや多かった（＋）。

イ キャベツでの寄生頭数は、少なかった（－）。

ウ 向こう1ヶ月（4/26～5/25）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並からやや少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

イ 施設内における葉菜類の栽培では、発生消長に注意し適期に防除を実施する。

2 野菜一般

アブラムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア 岐阜・西濃地域の黄色水盤での有翅虫の誘殺数は、少なかった（－）。

イ 向こう1ヶ月（4/26～5/25）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並からやや少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※病害虫図鑑「なす アブラムシ類について」もあわせて参考にしてください。

[参考資料 1]

【4月に実施した病害虫発生量の調査結果】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量	
		岐阜・西濃地域	中濃地域
麦	ヒメトビウンカ	やや多	多
チャ	ハマキムシ類	やや少	—
アブラナ科野菜	コナガ	やや多	—
イチゴ	灰色かび病	並	少
	うどんこ病	少	少
	ハダニ類	少	並
	コナジラミ類	多	少
野菜一般	アブラムシ類	やや少	—
冬春トマト	灰色かび病	少	—
	コナジラミ類	多	—
冬春キュウリ	コナジラミ類	少	少

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

[参考資料 2]

《用語の基準と使用法》

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
 やや早い 平年値より3～5日早い。
 やや遅い 平年値より3～5日遅い。
 早い 平年値より6日以上早い。
 遅い 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
 やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
 やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
 多い 平年値より、その値が41%以上多い。
 少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）—名古屋地方気象台 令和7年4月24日発表—

《予想される向こう1カ月の天候（4月26日から5月25日）》

- ・気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があります。
- ・平均気温の高い確率は60%です。降水量の平年並か少ない確率はともに40%です。日照時間の平年並か多い確率はともに40%です。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>